

## 入賞作品詳細

## 1 大府市（担当：企画広報課 電話番号：0562-45-6214）

部門	賞	作品名
広報写真 (組み写真部)	入選	広報おおぶ 2022年12月号 4～5ページ
<p>審査講評（公益社団法人日本広報協会）</p> <p>国産初のバイオリン製造所を大府で創業した鈴木政吉<small>すずきまさきち</small>にちなむ特集の見開きの扉ページである。誌面を見る人々が興味や好奇心をそそられるような特集ページの扉としての役割を上手に担っている。バイオリンの里と呼ばれるくらい市民とバイオリンが深い関わりがあるというを紹介しており、まちのブランディングも意識しているだろう。紙面構成は、見開きページに切り抜き写真をV字形に配置し、まわりの角版写真となじませている。人物の顔の向きも計算され、若い世代や子どもたちの日常にもバイオリンが溶け込んでいることを感じる写真構成になっている。見開き2ページの良いところは写真が大胆に大きく使えることである。人物を切り抜いて大きく配置して目にとまるように構成してある。子供たちの真剣な眼差しも次世代につながっていることが伝わる表現となっていて非常に良い。室内外ともに光を柔らかくコントロールしつつ、バイオリンから始まるブラウン系統の色彩統一から全体的に上品さも感じられる。演奏家やイベントの記録写真と、隣のページには子どもたちとバイオリンの関係性などが分かれており、やはり中央の切り抜いたバイオリニストへ視点が一気に集まるように、引きと寄りを巧みに使い分けている。ストーリー仕立ての目次のようで、丁寧な仕掛けをされているように感じた。</p>		

## ○「広報おおぶ」2022年12月号 4～5ページ 大府市



○掲載意図（大府市）

日本のバイオリン王・鈴木政吉すずきまさきちが描いた「バイオリンの里」の実現に向けて、令和4年度に大府市で開催されたさまざまなバイオリン関連のイベントを写真でまとめました。

大府に刻まれたバイオリンにまつわる歴史や市出身のバイオリニストの誕生など、大府とバイオリンの深い縁を紐解く特集を掲載するにあたり、初めのページの導入を視覚的に引き込ませるため、組み写真を企画しました。

バイオリンを学び、楽しみ、知る取組が見開きで分かるようにすること、たくさんの市民が紙面をにぎわすことを心掛けて、撮影・紙面制作に励みました。

紙面の中心には、市出身で世界的なバイオリニスト・竹澤恭子たけざわきょうこさんと市イメージ曲を制作した水野紗希みずのさきさんを配置しました。

2 扶桑町（担当：秘書企画課 電話番号：0587-93-1111）

部門	賞	作品名
映像	佳作	扶桑町制施行70周年記念プロモーションムービー

審査講評（公益社団法人日本広報協会）

軽快なオリジナルソングにのせたイメージ動画となっている。振付も楽曲もポップで「♪会いたいから 声聞きたいから～」のサビがキャッチーで印象に残る。音楽やダンスをフックに地域の魅力を伝える表現は、シティプロモーションの有効な手段のひとつになりつつある。そんな中でオリジナル作品である本作の楽曲は、明るくテンポがよく歌とダンスに引き込まれ、コンテンツとして力があると感じた。後半はフリップを手にした町民が次々と登場。住民参加型の手づくり感が好印象。低予算のなかでも一定の映像クオリティを確保している点も評価される。多くの町民と一緒に楽しんでつくった様子が伝わる展開に70周年の特別感を感じる。そうした「シビックプライド」醸成の点で注目される映像だ。また、オリジナル楽曲も非常に印象に残り、テーマにあっていて素晴らしい。核となる音楽ともマッチして、住民の街への愛着を伝えることに成功している。扶桑町に暮らす人にとってもうれしい動画になっているのではないだろうか。

○「扶桑町制施行 70 周年記念プロモーションムービー」 扶桑町  
([https://youtu.be/hSdf\\_\\_NJVWQ](https://youtu.be/hSdf__NJVWQ))



○制作意図（扶桑町）

扶桑町制施行 70 周年という記念の年に「ふそう」というまちを広く発信したいと考え制作しました。

地元で活躍しているよさこい団体と一緒に、どうしたら若い世代も観たくなるような作品ができるのかを日々検討した結果、キャッチーな曲と振り付けを盛り込むことで、愛着が沸き、これからの扶桑町の明るい兆しを彷彿とさせる作品となるよう制作に励みました。

本動画をきっかけに、町民の「扶桑愛」の醸成と町外の方へタウンプロモーションとして移住定住促進につなげていければと考えております。